内は其蔓の節々地に著ぬ樣に、時々草を除き、蔓を左右へ移し轉すれば、根に力いり、塊を成こと大にして且多し、かくするを蔓反（ツラカヘシ）といふ、其まゝにして滋蔓（シゲリハビコラ）しめ、節々地に著て鬚を生ずれば、根に塊少し、初種しより二三度も草を除き、蔓を移すまでにて、水を瀉ぎ養を用ること絶てなし、たゞ耕しこしらへして、畦筋を通し、塊種一を二つ三つに引缺て、蹲鴟（サトイモ）うゝるやうして、土を掩おくこと也といへり、されどかくしなんは、種塊多く費て、工夫（テマ）も殊にかゝりぬれば、必蔓種にしくものなし、

富民初苗を種るとき、一株ごとに素灰を少しづゝ根に置て種れば、塊を成こと繁くして大なりといふ、今北陸の農家は、甘藷の苗床をなさず、畑の

〔草木育種下菜〕甘藷（さつまいも）本草　又琉球いもとも云、薩州より來り、諸國に多し、武藏、相模、上總、安房等の砂地にて作るもの味よし、皮に赤みあるもの上品なり、山土にて作るものは形大なれども味劣り、赤土にても砂まぢりたる所へは作るべし、○略中　肥を用ず、

〔蕃薯考〕青木先生○敦書の植法は、十二月に其苗の地を耕し肥し置て、春の彼岸すぎにうゆるに、灰又ハ牛馬の糞を土にまぜ、深サ二尺ほどにして、薯種を二三寸に切てうへ、土を五寸ばかりかけ、薯蕷を植るごとく間廣くうゆるなり、

〔八丈島年代記〕一享保八年、公命御厚情の御仁惠を以、被差遣候品々左之通、○略中

一薩摩芋種　一薏苡芒種

右之通被差遣候處、さつまいも薏苡芒は作付不手馴爲哉、無間も此品ハ絶失申候、

一享保十二年、公命御仁惠を以、左之通被差遣ル、

一龍眼樹　身木二本　一薩摩芋種

右之通、貳品被差遣候、○略中

右薩摩芋種手入いたし作付、樫立村より仕覺、夫々村々江も相弘メ、當時一方の助ケニ相成、一